any

ars nova yamaguchi

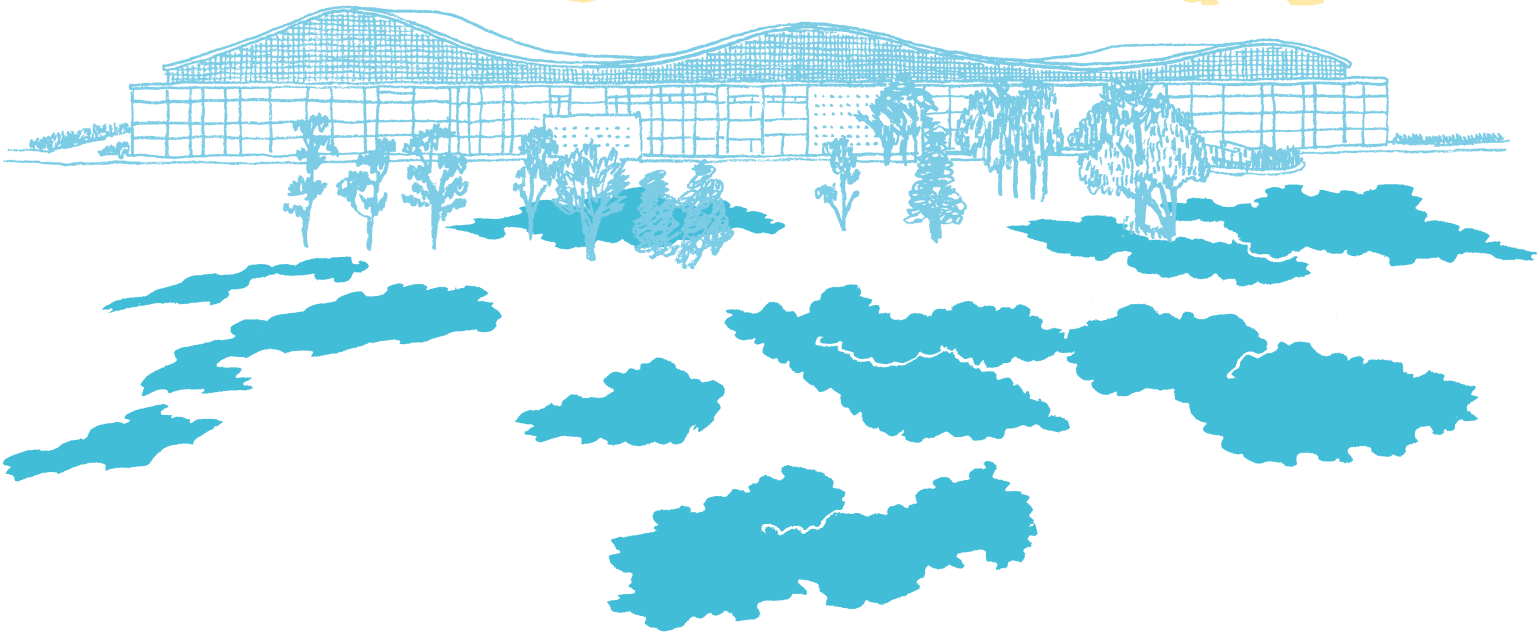
「エニー」

summer 2013
Jul.—Sep.

85

特集 YCAM10周年記念祭

YCAMから提案する アートと環境の未来。



any
ars nova yamaguchi

85
summer 2013
Jul.— Sep.

平成25年7月1日発行
発行:公益財団法人山口市文化振興財団
本誌記事の無断転載を固く禁じます。

C O N T E N T S

特集
03 YCAMから提案する アートと環境の未来。
YCAM 10周年記念祭

ピックアップイベント
08 この夏、多彩な企画が 咲き乱れる!

山口情報芸術センター
YCAM 10周年記念祭
ハイナー・ゲッベルス「Stifters Dinge」
事物のざわめきに満ちた機械仕掛けの〈自然〉

YCAM 10周年記念祭
子どもたちが創造する屋外メディア公園
「コロガルパビリオン」
大人気の「コロガル公園」がさらにスケールアップして出現!!

中原中也記念館
特別企画展「『文学界』と中原中也
—1930年代の文芸復興」
原稿料なんて無しでも、あたしゃ書くよ

山口市民会館
MALTA Jazz Big Band ～YAMAGUCHI LIVE～
迫力満点、MALTA率いるビッグバンドによるジャズライブ!

M&Oplaysプロデュース「悪霊—下女の恋—」
松尾スズキ演出の伝説の舞台、再演! 男女4人が織りなす愛憎劇

12 any通信
◎アーティストボイス 高橋竹山(音楽家)
◎お先に試写しました 「5windows」
◎いらっしゃいませ YAOKI
◎GOOD GOODS YCAM 10周年記念祭グッズ「YCAM BAGS」
◎My Favorite 田中みゆき(山口情報芸術センター 職員)

14 イベントカレンダー 7～9月
INFORMATION

any(エニー)とは、ラテン語の「新芸術(=ars nova)」と「山口(yamaguchi)」の頭文字を組み合わせた言葉です。

YCAMから提案する アートと環境の未来。

特集
YCAM 10周年記念祭

2003年の開館から10年。
独自の事業・プログラムをさまざまに展開し、世界でもほかに例をみないメディア・アート施設として
国内外で評価されてきた山口情報芸術センター〔YCAM〕。
節目となる今年はYCAM10周年記念祭として、いつもより規模を拡大し
商店街をはじめとする街中にも飛び出し、色んな企画が計画されています。

YCAM企画チーフ 緊急鼎談！

YCAM10周年記念祭のテーマ〈環境〉〈アート〉〈ライフ〉

10周年記念祭のアーティスティック・ディレクターには世界的に活躍される音楽家・坂本龍一さんが就任。はたして、YCAMはこの10周年で坂本さんと一緒にどんなことをやろうとしているのか？anyでは、YCAMの副館長であり、アート・チーフの阿部一直さん、エデュケーションプログラム・チーフの会田大也さん、パフォーミングアーツ・チーフの竹下暁子さんの3名にお集まりいただき、気になる10周年記念祭について色々お聞きしました。盛りだくさんのYCAM10周年、あなたはどの企画に参加しますか？

坂本龍一＋高谷史郎「LIFE-fluid, invisible, inaudible…」（2007）

20世紀の音楽を芸術と文明の流れからとらえ直し、戦争と革命を超えた共生のビジョンを開示した坂本龍一のオペラ「LIFE」（1999）をベースに、新たな音源、映像、システムを加えて再構築したインスタレーション作品。YCAMでの展示以後も、東京、ローマなどを巡回し、高い評価を得る。今回YCAM10周年記念祭の企画の1つとして、バージョンアップ版が再展示される。また作品の下で「能楽」のパフォーマンスの公開も第2期に予定している。

YCAM10周年記念祭のテーマである〈アート〉〈環境〉〈ライフ〉は、坂本龍一さんと一緒に決められたのですか？

阿部　そうですね。坂本さんには今回のYCAM10周年記念祭のアーティスティック・ディレクターに就任していただいたということで、坂本さんご自身が近年中心的に取り組んでおられることや、芸術や文明に対する洞察や考えと、YCAMがこれまでメディアの探求を中心にやってきたことをどうシンクロさせていくのか、お互いにたぐり寄せて様々な要素を抽出していった結果、この3つのキーワードに集約させることになりました。このテーマの展開を記念祭に合わせて考えるとどうでしょう？

会田　子どもたちの環境や生活を考えたとき、思い出すことがあります。あるドキュメンタリー番組の中で、「近ごろの子どもは野山で遊ぶことができなくて、家の中でばかり遊んでいる」と言われていたのです。これは1970年代に作られた番組で、すでにその時代からそのようなことが言われていたようですね。でも子どもたちは遊ばなくなったのではなく、昔の人がイメージする遊び方をしていないだけで、実際にはその環境に応じて子どもたちは遊んでいるのだと思います。いまは日常の暮らしや環境の中にコンピュータネットワークが埋め込まれていて、メディア環境というのは当たり前のようにあり、だからこそとても重要だと感じています。そういう意味でとらえられる〈環境〉を未来とつなげて考えていきたいなと思います。

阿部　〈環境〉と言っても、単純に自然環境保護という観点だけでなく、広い意味で見直しています。YCAMが推進しているメディア文化を、例えばアウトドア的な環境の中に取り入れていく視点もおもしろい。自然や事物と情報、見えるものと見えないものが重なるところにこれからの環境が作り出されていく中で、私たちがその豊かさに気付きどう積極的に関わっていくのか、アートのクリエイションによってそこに新たな側面や刺激が開けてくるのか、皆さんが参加することで発見があるということを提案していこうと考えています。

パフォーマンス PERFORMANCE

テーマにそってみなさん具体的にどんな企画を考えているのでしょう？まずは舞台作品について教えてください。

竹下　劇場というのは、お客さんにどういう空間をどういう時間で見せていくのか、そのことが演出家や振付家によってコントロールされた場所とも言えるのではないでしょうか。自然環境はその逆で、どこか人間の手が及ばないもの、というイメージがあります。

7月に上演するハイナー・ゲッベルスの「Stifters Dinge」は、〈アート〉〈環境〉〈ライフ〉というテーマについて考えたときに最初に企画した舞台作品です。舞台上に役者はいません。その代わり、水や氷、霧などの、本来は劇場の外にあるものが主役なのです。それらを上演時間中にどういう風に変化させていくのかをゲッベルスは演出しています。いわば「機械仕掛けの自然」を劇場に登場させるわけで、アーティストだからこそ想像できる新しい環境の姿を紹介できればと思っています。

劇場内で行われるパフォーマンスのほかに、屋外でのパフォーマンスもあると聞きましたが…。

竹下　さきほど、阿部さんからも出た「アウトドア」と「メディアテクノロジー」を組み合わせた企画を以前からやりたいなと思っていて、今回8月にコンタクト・ゴンゾさんとYCAMが共同で作る参加型のアウトドア・プロジェクト「hey you, ask the animals. / テリトリー、気配、そして動作についての考察」というツアーパフォーマンスを行うことになりました。お客さんはアーティストと山口の自然の中に飛び出します。自分の身体やテクノロジーを使うことで、普段の生活にはない感覚を発見したり、さらに言うと、自分の周りの環境をもっとおもしろい遊び場にしたり、そういったことを実践していきます。実は、コンタクト・ゴンゾさんは山口市内の森でツアーのためのフィールド（＝場）を作っていくのですが、参加者はそこに尋ねて行き、コンタクト・ゴンゾさんのナビゲートで色々な体験をしていきます。さらにその体験を記録するために、オリジナルのメディアツールも開発中です。いまアウトドアの世界では、GPSを利用して、登山などで自分がどういうルートをたどったのかといった情報を、webを通じてシェアするというムーブメントもあり、「自然」と「メディアテクノロジー」という一見すると相対するものが組み合わさって新しい体験を生み出すケースが身近になってきています。この企画にはそういう背景もあります。

坂本さんが制作されたアート作品の下で行われるという「能楽」のパフォーマンスについても教えてください。

阿部　2007年に坂本龍一さんと高谷史郎さんがYCAMに滞在し、制作した委嘱作品「LIFE-fluid, invisible, inaudible…」は、霧が発生する9つの水槽を天井から吊り込み、そこに映る映像と音で構成した作品です。YCAMを皮切りに、東京、ローマなどでも展示された「LIFE」ですが、今回はバージョンアップ版を再展示します。そしてその作品の下で、野村萬斎さんと坂本さんの初の本格的なコラボレーションとして、古典と現代を融合したという意味での新しい「能楽」を表現する斬新なパフォーマンスを考えています。萬斎さんにとってもこういう挑戦は初めてなのではないでしょうか。

photo & copyright: MARIO DEL CURTO

ハイナー・ゲッベルス「Stifters Dinge」

俳優は一切登場せず、光、音、声、霧、風、水、氷、絵画、そして積み上げられた5台のピアノが、人の手や機械によって制御され、変化を遂げていくことでパフォーマンスが進行していく。本誌P9参照。

contact Gonzo＋YCAM参加型アウトドア・プロジェクト「hey you, ask the animals.／テリトリー、気配、そして動作についての考察」

アーティスト・contact Gonzo（コンタクト・ゴンゾ）とYCAMが提案する参加型アウトドアツアー。山口市内の山間部を縦横無尽にめぐるフィジカルな経験（＝身体）に加え、映像など参加者の身体データを共有するシステム（＝メディア）を用いて、自分の周りの環境との新しい接し方を発見していく。

能楽コラボレーション
野村萬斎＋坂本龍一＋高谷史郎「LIFE-WELL」

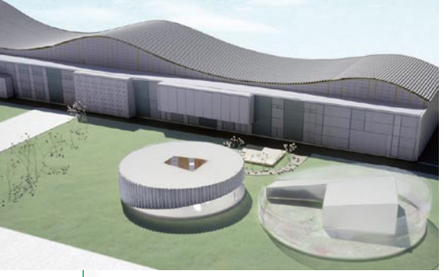
坂本龍一＋高谷史郎「LIFE-fluid, invisible, inaudible…」（2007）開催時の様子。10周年記念祭では、本作品のバージョンアップ版を再展示するだけではなく、その下で、野村萬斎と坂本龍一のコラボレーションによる「能楽」のパフォーマンスを行う。

能楽コラボレーション
野村萬斎＋坂本龍一＋高谷史郎「LIFE-WELL」関連展示

上記の「能楽」のパフォーマンスとテーマを共有するインスタレーション作品を、山口市の貴重な文化遺産である野田神社境内で展示公開する。

わかる！キーワード

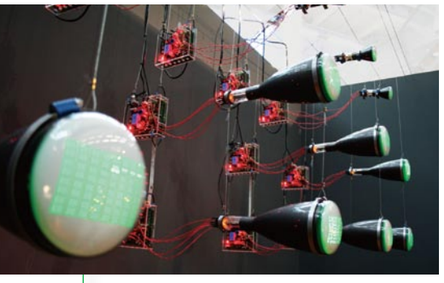
【YCAM10周年記念祭】　2003年11月1日に開館した山口情報芸術センターの10周年を記念し、夏期（第1期）と秋期（第2期）とに分けて、多くのアーティスト・参加者・市民を巻き込みながら20を超える様々な企画を行うアートフェスティバル。開催にあわせて記念祭をより楽しむための公式ガイドブックを出版予定。



子どもたちが創造する屋外メディア公園「コロガルパビリオン」

「コロガルパビリオン」完成予定図。本誌P9参照。

昨年行われた「コロガル公園」で子どもたちが遊ぶ様子。今回は、場所を屋内から屋外へ移し、規模を拡大して開催する。本誌P9参照。



国際グループ展「art and collective intelligence」

参加作家の1人、ダフィット・リンク(ドイツ)の作品写真。ほかに、タレク・アトウィ(レバノン/フランス)、ハックデザイン+リサーチ(イギリス)、コンタクト・ゴンゾ(日本)、平川紀道(日本)、ムン・キョン・ウォン(韓国)が参加。鑑賞者の行動も作品に反映され、個々の作品の変化だけではなく展覧会全体が更新されていく様子も体験できる。

坂本龍一+YCAM InterLab「Forest Symphony」

樹木に流れるわずかな電位を取り出し、そのデータをある一定のルールに従って音楽に変換していく。山口市内の3カ所と、世界各地の森の樹木からデータを集め、インスタレーション作品としてYCAM館内で展示公開する。本誌P9参照。

竹下　萬斎さんは古典芸能に色々な新しい試みをされてきた方で、現代演劇もされていますが、メディア・アートとのコラボレーションは今までにないことですよね。脚本や音楽、映像について、坂本さん、高谷さんとのやり取りが現在進んでいます。

教育普及 EDUCATION

教育普及の事業としては、やはり今回大きな位置を占めるのが「コロガルパビリオン」だと思いますが、昨年の「コロガル公園」とはどこが違うのでしょうか？

会田　子どもたちにとっての環境に「遊び場」というのがあって、そこには身体的な要素もメディア的な要素も両方入っていてかつ子どもたちが自分たちのアイデアで環境をどんどん変えていくことができる場所であるという基本コンセプトは同じだと思っています。大きく違うのは、今回「assistant(アシスタント)」という建築ユニットに設計に入ってもらっていますが、彼らとの話の中で、「屋外よりも屋外」「屋内よりも屋内である」という、建築に対する経験をより強化するような設計によって、遊び場という環境を再提案したい、という話し合いが進められました。シリンダーと呼んでいる2つの建物全体で、パビリオンが成立し、2つの建物の表と裏が入れ子状になっています。内側が空洞になっているドーナツ構造の建物と、内側が中心性を持っている建物の2つを行ったり来たりすることができるようになっていて、建物の中にいる、もしくは外に出た、という感覚が非常に強化されるような建物になっています。

大きな規模のものになりそうですが、現段階で苦労されている点はありますか？

会田　屋外に仮設のパビリオンを作るということ自体が大変ですね(笑)。想定しうるものとして台風への対策とか、まさに環境との対峙になってきます。どうしても近代的な発想で環境をコントロールしていこうという人間のエゴがありますが、実際にはそれが無理であることも僕らは知っている。とはいえ台風が来ても柳のように動くなど柔軟に対応できるような建物を作ることはできないので、どうしても自然に抗わなくちゃいけない。そこはとても業が深い問題だなと思いながらも、だからといってセメントで固められている大きな壁を作ればよいのではなく、屋外の環境を非常によく取り込めるような建物を目指して、半透明の壁にしている場所や格子状の壁面を作ることで風がよく通る場所を作るなど、自然をコントロールするのではなく自然に寄り添うことができるような場を作ることを目指しました。

アート ART

アート事業としてはどのような内容の展覧会を予定していますか？

阿部　第1期となる7月からのメインとしては、「art and collective intelligence」という国際グループ展を予定しています。世の中でまだ明確に定義されていない「集合知」という概念をテーマにした挑戦的なアート展を試みます。「集合知」というのは聞きなれないかもしれませんが、個人によって編集した知見や表現からではなく、様々な人たちがネットワーク上で互いの知識や考察を交換し合う集合的な方法から何かを作り出すというもので、twitterやSNSのような新たな知のあり方がいま世界的に広がってきています。今回は、レバノン、イギリス、ドイツ、韓国、日本の国際的な6組のアーティストを招聘し、「知」と「感覚」の両面から作品表現を行ってもらいます。会期中変化していく要素も一部取り込んでいくので、観客と一緒に成長する展覧会としてエキサイティングなものになると思います。アウトドア・プロジェクトでも登場するコンタクト・ゴンゾもこのグループ展に参加します。

竹下　コンタクト・ゴンゾさんは森の中で制作をされますが、その場所を、アウトドア・ツアーとグループ展のそれぞれで、お客さんが違う形で体験できるように考えています。

阿部　そのほか映画関連では、坂本さんから提案していただいた「音楽家が選ぶ、音楽映画」という映画音楽から見た映画特集や、普通の映画上映では体験できないハイスペックな音の環境で映画を観ることに狙いを定めた「YCAM爆音上映会」、恒例の「真夏の夜の星空上映会」、また映画音楽を3人の作曲家に新たに提供していただき、その音楽に対する映像のコンペを行う「架空の映画音楽の為の映像コンペティション」など多彩に展開します。コンペの受賞作品はYCAM館内ではなく、山口市の中心市街地の様々な場所で展示上映を行います。いま話題の若手監督(招待作家)たちの新作公開もありますよ。音楽イベントでは、坂本さんが出演する10周年記念祭のオープニングライブのほか、いまはまだ詳細をお伝えできないものも含めてライブコンサートも複数回予定しています。

様々な企画が予定されているYCAM10周年ですが、もしみなさんが企画者ではなく、一観客だとしたら、10周年記念祭の企画をどう楽しみますか？

会田　僕だったら、YCAM以外の、でも今回の10周年のテーマを考え直すことができるようなスポットにも行ってみるかも。山口は自然環境がいっぱいあるので、たとえば森の中に行ってみたり、川遊びに行ってみたりしつつ、YCAMのイベントにも参加してみて、それらの比較の中でYCAMが掲げているテーマをより深く楽しみたいと思います。

企画のための参考資料や書籍が保管されているYCAM書庫にて。
写真左から、パフォーミングアーツ・チーフの竹下暁子さん、エデュケーションプログラム・チーフの会田大也さん、アート・チーフの阿部一直さん。

阿部　例えば、坂本さんの「Forest Symphony」では山口の樹木環境を3カ所選んでいるわけですが、坂本さんはどんな木を選んで展示に使っているのか、由緒ある美しい木なのではないのかといったことを考えながら、一種のツリーウオッチングツアーのような視点から山口を見て、各ポイントを訪ねてみるのもいいかも。百年〜千年も経っているような木が生まれた都市の過去の姿も一緒に想像しながら市内を回ってもらうと、通常のツアーでは見えてこないような山口が見えてくるのではないでしょうか。山口の文化のルーツをたどると同時に、人間の世代の歴史を越えた地域の地球環境としての古層を知っていくことにもつながると思うので、そういう視点から山口という地域の再発見が見えてくればすばらしいですね。

竹下　普段、遠方からYCAMにいらっしゃる方々は、どうしてもYCAM以外の場所をゆっくり見る機会は少ないと思います。今年は館内だけでなく、野外でやっているイベントもたくさんあるので、ぜひ市内を巡るつもりで参加して欲しいですね。山口の違う顔も見えて印象が変わるんじゃないでしょうか。県外から来られる方であれば、7月から8月はイベントが盛りだくさんだし、坂本さんの新作を観ることができる11月もお薦めです。ぜひたくさんの方に参加していただきたいですね。

アートと環境の未来・山口
YCAM 10周年記念祭

アートと環境の未来・山口 YCAM 10周年記念祭

第1期: 2013年7月6日(土)〜9月1日(日)
第2期: 2013年11月1日(金)〜12月1日(日)
※火曜休館・開場　祝日の場合はその翌日
※10/22(火)のみ開館

PRESENT

YCAM10周年記念祭の関連グッズをプレゼントします。

【申込方法】ご希望のプレゼント番号、住所・氏名・年齢・電話番号・e-mail等の連絡先、今号の「any」の感想をご記入の上、7月31日(水)までにハガキ(当日消印有効)・FAX・e-mailでご応募ください。

A ピンバッチ(5名)
YCAM10周年記念祭のロゴをかたどったピンバッチ。

B YCAM BAGS(1名)
本誌P13「GOOD GOODS」でも紹介しているトートバッグ。色は黒・緑・蛍光オレンジ×イエローの3色あります。※色はお選びいただけませんのでご了承ください。

【あて先】〒753-0075　山口市中園町7-7
(公財)山口市文化振興財団
「any vol.85 特集プレゼント」係
FAX:083-901-2216　e-mail:any@ycfcp.or.jp
※当選の発表は、発送をもってかえさせていただきます。

聴いた！観た！みんなのレビュー

◎途中の展開の妖艶な踊りにビックリ!!(女性　演劇公演「男嫌い」より)
◎厳しくも、かつては子煩悩であった謙助の姿を、手紙などから知ることができ、良かったです。(20代女性　「中也の父・謙助」より)
◎私も、汽笛には、何ともなしに反応してしまいます。(20代女性　「旅する中也―汽車の笛聞こえもくれば」より)
◎豪華な出演者に大衆演劇あり、笑いもあり、ストーリーもしっかりしていて大変おもしろかったです。(50代女性　演劇公演「男嫌い」より)
◎中也の詩を読んで泣いていたという謙助に思わず涙。やはりいつも心の中に中也がいたのですね。(40代女性　「中也の父・謙助」より)
◎こうしてここを旅できてよかったと思っています。(30代男性　「旅する中也―汽車の笛聞こえもくれば」より)
◎コメディタッチで現代の女性の気持ちが表れていて共感できました。(40代女性　演劇公演「男嫌い」より)
◎中也が「旅情の我鬼」と自らを称していたので、旅に対する中也の想いをより知りたくなった。(30代女性　「旅する中也―汽車の笛聞こえもくれば」より)

「悪雲―下女の恋―」

「YCAMDOMMUNE」

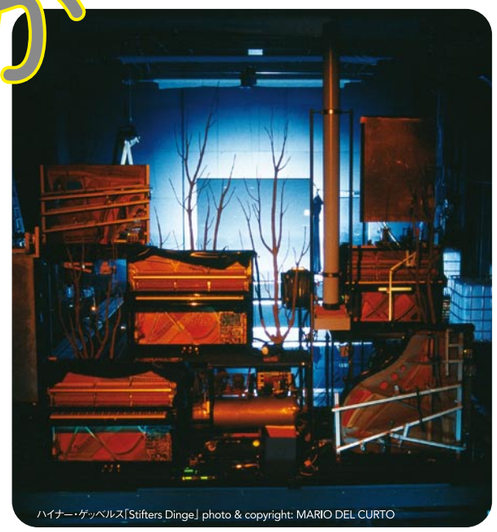
「バギャグニーニ」

この夏、多彩な企画が咲き乱れる！

「MALTA Jazz Big Band」

「文学界」昭和17年2月号

7月からはYCAM 10周年記念祭の事業が
YCAM館内、中央公園だけではなく、
街中のあちこちで始まります。
また、中原中也記念館はこの時期、
1年で一番大きな企画「特別企画展」を開催。
文芸誌「文学界」と中原中也の関係に迫ります。
山口市民会館では、8月にサックスプレイヤーMALTAと
熱気あふれるビッグバンドによるコンサートを、
夏の終わりの9月には松尾スズキによる
男女の愛憎劇を描いたお芝居をお届けします。
多彩で魅力的なラインナップがあちこちで花開き、
様々にイベントを楽しむことができる今年の夏！
ぜひお出かけください。


ハイナー・ゲッベルス「Stifters Dinge」photo & copyright: MARIO DEL CURTO

山口情報芸術センター（YCAM）

http://10th.ycam.jp/

YCAM 10周年記念祭

ハイナー・ゲッベルス「Stifters Dinge（シュティフタース・ディンゲ）」

2013年7月13日（土）19:00開演／ 14日（日）14:00・19:00開演／
15日（月・祝）14:00開演
会場：スタジオA

事物のざわめきに満ちた機械仕掛けの〈自然〉

photo & copyright: MARIO DEL CURTO

山口情報芸術センターでは、YCAM10周年記念祭の一環として、現代を代表する作曲家で演出家のハイナー・ゲッベルスのパフォーマンス／インスタレーション作品「Stifters Dinge」を日本で初めて山口で上演します。ゲッベルスは、作曲家としてキャリアをスタートした後、90年代からは朗読と音楽で構築された「ミュージックシアター」と呼ばれる作品を多数発表してきました。今回上演される「Stifters Dinge」もその1つで、〈人間不在の演劇〉をテーマに作られた作品です。人間に代わり登場するのは、私たちの周囲に普遍的に存在する霧や風、水、氷、砂、そして舞台中央に置かれた5台のピアノが自動的に紡ぎ出す音楽と、自然について語る人々の声。これらの事物が結びつきながら変容することで、舞台上に壮大な〈自然〉が出現し、パフォーマンスが展開していきます。

わたしはココに注目する！
関連企画として、坂本龍一×ハイナー・ゲッベルスによるトークを行います。

10周年記念祭オープニングトーク
2013年7月14日（日）　15:45〜17:00
会場：スタジオA
［料金］無料（要申込）
※申込方法等詳細はお問い合わせください。

チケット情報 | 発売中
料金 | 全席指定　前売　一般 4,000円　any会員・特別割引 3,500円　25歳以下 3,300円
当日　4,500円

YCAM 10周年記念祭

子どもたちが創造する屋外メディア公園「コロガルパビリオン」

2013年7月26日（金）〜12月1日（日）　10:00〜18:00
会場：山口市中央公園 ※火曜休館（ただし10／22［火］は開館）

大人気の「コロガル公園」がさらにスケールアップして出現!!

「コロガルパビリオン」完成予定図

昨年春から夏にかけてYCAM館内に登場した「コロガル公園」が、YCAM10周年記念祭の企画として「コロガルパビリオン」と名前をかえて再びお目見えします。さらに大きなスケールとなって、しかもYCAM目の前の山口市中央公園内に出現。屋外の場所でありながらも内側と外側／屋外と屋内が反転したような構造をみせる半屋外型公園になっています。「コロガル公園」でもみられた起伏のある床で構成された身体的な装置と、埋め込まれたスピーカー、マイク、LED照明などのメディア的な装置で、全感覚を呼び覚まして遊びを創造することができます。また、この遊び場をさらに楽しい場所に変えていくよう、子どもたちがアイディアを提案する「こどもあそびばミーティング」も会期中複数回開催。子どもたちの創造力によってどんどん変化していく公園「コロガルパビリオン」へ、ぜひ遊びに来てください！

わたしはココに注目する！
昨年の「コロガル公園」体験者から、早くも今年の「コロガルパビリオン」のオープンを待ちわびる声が聞こえています。未体験のあなたも一度来れば病みつきになって何度も訪れたくなるはず！

料金 | 無料

■特に記載のない場合、any会員割引は1会員2枚まで。
■いずれの公演も当日券は各種割引の対象外となります。　■特に記載のない場合、開場は開演の30分前です。
■特に記載のない場合、未就学児入場不可。託児サービスについては、お問い合わせください。

mini PICK UP!

「YCAMDOMMUNE（ワイカムドミューン）」
2013年7月6日（土）〜9月1日（日）
11月1日（金）〜12月1日（日）
会場：DOMMUNEビル
（山口市道場門前1-2-31）

インターネット配信による多彩なトーク番組とライブパフォーマンスを全世界へ発信し続け、世界中から多くの視聴者数を獲得し続ける宇川直宏率いるライブストリーミングスタジオ“DOMMUNE”がYCAMとタッグを組み、山口市中心商店街の空きビルにサテライトスタジオ「YCAMDOMMUNE」を展開。山口ならではのライブやトークを世界に向けて発信していきます。また、DOMMUNEがこれまで蓄積してきた約2000を超える番組の中から厳選したプログラムを展示公開します。

［料金］無料

■関連ライブ
2013年7月27日（土）
20:00開演
会場：山口情報芸術センター スタジオA

※YCAM10周年記念祭オープニングライブ（7/26）とのセット券あり。料金等詳しくはお問い合わせください。

mini PICK UP!

坂本龍一＋YCAM InterLab
「Forest Symphony（フォレスト・シンフォニー）」
2013年7月26日（金）〜12月1日（日）
会場：山口情報芸術センター ホワイエ

森林や樹木に深い興味を抱いてきた坂本龍一が、東日本大震災以降、その関心を具体的な芸術表現として示したのがNHKでも放映された「Forest Symphony」プロジェクトです。森林を始めとした人類が生きる環境に目を向けることを意図してつくられたこの「Forest Symphony」を、YCAM InterLabとのコラボレーションにより、さらに発展させます。樹木から流れる生体電位を取得し、そのデータをある一定のルールに従って音楽に変換。YCAMでは、インスタレーションとして展示するほか、世界中の樹木から電位を取得するためのツールキットを、オープンソースとして公開します。

中原中也記念館

http://www.chuyakan.jp/

特別企画展

「『文学界』と中原中也―1930年代の文芸復興」

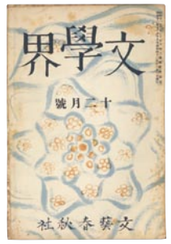
2013年8月29日(木)～10月31日(木)

原稿料なんか無しでも、あたしゃ書くよ

上の見出しは、「文学界」が廃刊の瀬戸際に立った時、小林秀雄が編集同人たちの前で言い放った言葉といわれています。

「文学界」は、1933年に創刊された文芸誌です。文壇では当時、《文芸復興》を合い言葉に、新しい文学の気運が高まりつつありました。「文学界」に集った人々は、自分の真に書きたい作品を発表する場を求め、原稿料を度外視してでも「文学界」に寄稿したのです。中也は、昭和9年から12年にかけて、数多くの詩を「文学界」で発表。その大半は、第二詩集『在りし日の歌』に収録されており、「言葉なき歌」「冬の長門峡」「春日狂想」など、後に中也の代表作となる作品も数多く含まれています。

本展では、中也の直筆原稿や、小林秀雄、青山二郎ら「文学界」に深く関わった人々の関連資料、1930年代の文化状況を示す資料等を通じて、「文学界」と中原中也の関わりを多面的に紹介します。



「文学界」昭和12年12月号

わたしはココに注目する!

原稿料が入らなくてもいい。そうまでして守りたかった「文学界」とはいったいどんな文芸誌だったのか? 当時の文学者たちの心意気と、「文学界」にかける熱い思いを展示で感じ取ってください。

入館料 一般 310円(262円)／大学生 210円(157円)／小中高生 150円(105円)
※70才以上は無料　※(　)内は20人以上団体料金

中也検定 これであなたも中也通?!

Q. 中也の作品発表の場の一つであった文芸誌「文学界」。文学のみならず、食に関するエピソードもさまざまです。
同人の吉田健一は酒豪で知られていますが、そろそろ一杯…という時間にもかかわらず、資生堂の喫茶室でショート・ケーキを注文し、まわりを驚かせます。また、「文学界」の校正室のあった共同印刷ビルには食堂があり、無料で食事ができました。そのため河上徹太郎ら関係者がよく利用し、カツライスやカツカレーを食べていたそうです。
さて、編集者の一人・式場俊三(しきばしゅんぞう)は、中也がその食堂で意外なものを注文していたのを目にします。その食べ物とはいったい何だったのでしょう?

1 大学いも
2 甘納豆
3 栗の砂糖煮

答えは14ページ

中也を味わう

春と赤ン坊

菜の花畑で眠ってゐるのは……
菜の花畑で吹かれてゐるのは……
赤ン坊ではないでせうか?

いいえ、空で鳴るのは、電線です電線です
ひねもす、空で鳴るのは、あれは電線です
菜の花畑に眠ってゐるのは、赤ン坊ですけど

走ってゆくのは、自転車々々々
向ふの道を、走ってゆくのは
薄桃色の、風を切って……

薄桃色の、風を切って
走ってゆくのは菜の花畑や空の白雲(しろくも)
――赤ン坊を畑に置いて

【解説コメント】
この詩は、中也が「文学界」に発表した最初の作品です。「文学界」1935年4月号に「春二題」という標題で、「雲雀」とともに掲載され、のちに第二詩集『在りし日の歌』に収録されました。〈菜の花畑〉で〈赤ン坊〉は眠っています。しかし〈赤ン坊ではないでせうか?〉という問いは、〈空で鳴るのは、電線です〉というつじつまの合わない答えによってそらされます。〈赤ン坊〉が置き去りにされる最終行にも不穏な空気が漂いますが、周囲の移ろう風景と対照的に、常に視点が〈赤ン坊〉へ戻るという点で、〈赤ン坊〉は不動の存在であるといえます。〈赤ン坊〉のモチーフには1934年10月に誕生した長男・文也の影響がみられますが、牧歌的な情景に不協和音のような言葉を紛れ込ませることで、平穏な幸福と、漠然とした不安という異なる感情を、詩に共存させています。

観た!聴いた!みんなのレビュー
◎自分では調べられないような、同時代の歌(唱歌や流行の歌)などについての資料があったのが良かったです。(20代女性　「中也の"うた"」より)
◎最初から最後まで本当に笑って、泣けて、最高に楽しかったです。(30代女性　演劇公演「男嫌い」より)
◎父・謙助に焦点をあてることで、中也の生い立ちを知ることができます。(60代女性　「中也の父・謙助」より)
◎大衆演劇の踊りも見られて2度おいしい。(50代女性　演劇公演「男嫌い」より)

山口市民会館

http://www.c-able.ne.jp/~shiminkk/

MALTA Jazz Big Band ～YAMAGUCHI LIVE～

2013年8月25日(日)　16:30開演
会場:大ホール

迫力満点、MALTA率いるビッグバンドによるジャズライブ!

ジャズ・プレイヤーでありサックス奏者のMALTAが、ビッグバンドをたずさえて山口にやってきます。リリースしたCDが数々ヒットし、また日本ゴールデンディスク大賞にも輝くなど、そのテクニックと音楽センスは抜群、日本を代表するサックスプレイヤーとして、国内外で幅広く活躍するMALTA。その活動は多岐にわたり、全国のアマチュア吹奏楽団・ビッグバンドのクリニック、ジョイントコンサートなど文化教育にも力を注いでいます。また「MALTA Jazz Big Band」としても精力的に活動中。MALTAのサックスプレイとビッグバンドによる迫力満点の演奏、心躍る楽しい楽曲を存分にお楽しみください。山口県鴻城高校吹奏楽部も特別参加します。

わたしはココに注目する!

一人一人のテクニックはもちろん、ビッグバンドならではの迫力と楽しさに満ち溢れた彼らの演奏と、ホールいっぱいに響きわたるジャズの名曲。そのメロディとリズムに身をゆだねれば思わず体が動きだす!?

チケット情報 発売中
料金 全席指定　前売　一般 3,500円／学生 1,500円　※any会員は一般料金より各500円引き(1会員4枚まで)
当日　一般 4,000円／学生 2,000円

M&Oplaysプロデュース

「悪霊―下女の恋―」

2013年9月27日(金)　19:00開演
会場:大ホール

松尾スズキ演出の伝説の舞台、再演! 男女4人が織りなす愛憎劇

1997年に初演を迎え、当時「ファンキー」で岸田國士戯曲賞を受賞したばかりの新進気鋭の劇作家・松尾スズキが演出した舞台作品「悪霊―下女の恋―」。客席数150足らずの小さな劇空間から始まった本作は、徐々に評判となり、連日通路まで観客でいっぱいになる、まさに衝撃の話題作として注目を集めました。その評判を受け、2001年に再演、またさらに10年以上の歳月を経てこの度の再演が実現しました。キャストは初演と再演の2回とも出演している広岡由里子のほか、ナイロン100℃の看板俳優で実力派の三宅弘城、大人計画の看板女優・平岩紙、新進の若手俳優・賀来賢人など、演技派でフレッシュな顔ぶれもそろいます。

時を経ても古さを感じさせない感性と、普遍性を保った愛憎劇。松尾スズキがこの作品の中で描く母性の切なさと、残酷さが圧倒的な力で迫ってくる傑作戯曲。2013年のこの時代にどのように甦るのか、ご期待ください。

わたしはココに注目する!

1997年の初演から16年の月日が流れ、作品はどのような色味を帯びてみえるのか? そこには時間の風化を感じさせない永遠ともいえる男女・親子による愛憎劇が松尾スズキの独自の感性で描かれています。

チケット情報 発売中
料金 全席指定　前売　S席　一般 6,000円
A席　一般 4,500円／ 25歳以下 2,500円　※any会員は一般料金より各500円引き(1会員4枚まで)
当日　S席 6,500円　A席 5,000円

先行チケット発売情報 早チケ　any会員先行予約 9月7日

パギャグニーニ・ジャパンツアー 2013

2013年12月15日(日)
15:00開演
会場:山口市民会館 大ホール

スペインから誕生した弦楽四重奏による最高のエンタテインメント集団"パギャグニーニ"。ヨーロッパを中心に活躍する彼らは、超絶技巧と抜群の演奏センス、ステージを所狭しと踊り、飛び跳ねる演奏スタイルとユーモアあふれるパフォーマンスで、子どもから大人まで大人気。世界各地で絶賛の声があがっています。そんなパギャグニーニがこの冬、ついに日本初上陸!

[チケット発売]
any会員先行予約　9月7日(土)～
一般発売　9月21日(土)～
[料金]全席指定
前売　一般　4,000円
any会員　3,500円
当日　4,500円

先行チケット発売情報 早チケ　10月12日発売!

親と子どものミュージカル
「ルドルフとイッパイアッテナ」

2013年12月21日(土)
18:00開演
会場:山口市民会館　大ホール

子猫のルドルフは、ある日ひょんなことからトラックで遠い町まで運ばれてしまいます。たどりついた町でルドルフが出会ったのは、たくさんの名前をもち、たくさんの知り合いがいて、字まで読めちゃう不思議な猫、イッパイアッテナ。NHK教育テレビ「てれび絵本」でも取り上げられるなど、子どもたちに大人気の物語を、イッツフォーリーズがミュージカル化。1993年の初演以降も各地でロングランを重ね、高い評価を集める作品がついに山口でも上演されます。

[チケット発売]
一般発売　10月12日(土)～
[料金]全席指定　※3歳以上有料
前売　一般　3,000円
any会員　2,700円
当日　3,500円

■特に記載のない場合、any会員割引は1会員2枚まで。
■いずれの公演も当日券は各種割引の対象外となります。　■特に記載のない場合、開場は開演の30分前です。
■特に記載のない場合、未就学児入場不可。託児サービスについては、お問い合わせください。

any通信

今年の夏は山口で
アートの世界を
ぐるり旅しよう。

詩人・中原中也の世界を もっと深く知るために

中原中也の詩を愛する人々が広く交流し、研究を向上させるために1996年に発足した中原中也の会。年に一度行われる大会では、様々なアプローチから中也の詩を深く理解する場を提供しています。今年は「1930年代と中原中也」をテーマに講演会やシンポジウムを開催。アトラクションには鷺流狂言が披露されます。翌日10:00〜12:00は同会場でセミナーを予定。特別企画展をみんなで見学する時間もあります。あわせてご参加ください。

第18回中原中也の会大会
2013年9月14日(土)
13:00〜17:20
会場:ホテルニュータナカ
[料金]500円

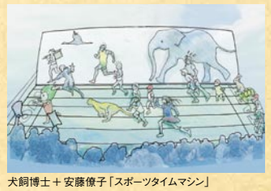
公募企画「LIFE by MEDIA」、受賞作品が決定!!

YCAMでは10周年事業の一つとして、公募企画「LIFE by MEDIA」を実施。締め切りぎりぎりまで全国や海外から多数作品が寄せられ、その中から、去る3月に行われた審査会によって3つの受賞作品が決定しました。個人の服飾品を持ち寄って、誰もが利用可能な公共の衣装ダンスを作りだす「PUBROBE(パブローブ)」、山口に住む人たちの"とくいなこと"を財産として預かり、貯めて、ときにはほかの人のとくいを引き出すこともできる「とくいの銀行 山口」、スクリーンに映し出される昔の記録と実際に"かけっこ"できる装置を用いた「スポーツタイムマシン」。これらは7月から山口市中心商店街のどこかで体験することができますよ。詳細は10周年の特設サイトを!

10th.ycam.jp/

西尾美也「PUBROBE」

深澤孝史「とくいの銀行 山口」


犬飼博士＋安藤像子「スポーツタイムマシン」

ARTIST VOICE アーティストボイス

高橋竹山(音楽家)

一昨年の4月29日、中原中也記念館の前で行われた中原中也生誕祭「空の下の朗読会」のゲストとして登場した2代目高橋竹山さん。その三味線の音色は、澄み切った春の空に気持ち良く溶けこみ、私たちの胸に滲みわたりました。これまでに山口県内をいくつか訪れる機会のあった高橋さんに改めて山口の印象をお聞きしました。

山口がとても近く感じられます。

いま毎月購読している本が到着。今月の特集は「山口・毛利家の旅」とあります。読んでいるうちに、私が初代竹山先生の内弟子の頃から山口県内たくさんの土地に伺っていたんだなあと思い出しています。中でも、初代と行った「秋芳洞」。夏でも洞窟の中はひんやりとして心地よく、外に出たくなかったのを覚えています。その時の宿は萩の旅館で、とてもゆったりした気分でした。月日は流れて、30代の頃に防府市公会堂で落語家の柳家さん喬師匠が種田山頭火に扮して私も三味線で共演し、その生涯を辿りました。その山頭火が敬愛していた伊那の俳人・井上井月(実際に山頭火は井月に会いに行っています)は一説によれば元長岡藩士だったらしく、今は私も同じ新潟県民ですが、井月と山頭火の関係性に似て山口がとても近く感じられます。そして、井月や山頭火の生きざまに魅了され続けている私なのです。

中原中也生誕祭「空の下の朗読会」
2011年4月29日
会場:中原中也記念館前庭

毎年恒例の野外イベントとして行われている中原中也生誕祭「空の下の朗読会」。ここでは、中原中也記念館の前庭をステージに、市内・県内または県外から集まった参加者が、自由に選んだ詩を朗読。またゲストミュージシャンによるライブコンサートも開催。詩や言葉について深く感じることができる企画として、毎年多くの方が中原中也の詩や、詩と音楽の世界を楽しんでいます。2011年のゲストミュージシャンには、新潟から三味線奏者の2代目高橋竹山が登場。爽やかな空の下、三味線の独特の音色がステージいっぱいに響きわたり、観客を大いに魅了していました。

高橋竹山　TAKAHASHI Chikuzan

18歳で内弟子入り、6年間の内弟子生活を経て独立。初代が亡くなるまでの25年間、初代と舞台を共にする。1997年、2代目高橋竹山襲名、渋谷ジャン・ジャンで公演を行う。活動の幅は広く、さまざまなジャンルの音楽家、舞踊、新劇の人々と共演。また最近、三味線×ピアノ×絵画のコラボレーションアルバム「彩」をリリース。好評を博している。http://www.chikuzan.jp/

聴いた!観た!みんなのレビュー

◎中也が旅好きと言う切り口は意外で、なるほどと思った。(40代男性　「旅する中也―汽車の笛聞こえもくれば」より)
◎思いもよらない展開に楽しく観劇しました。(60代女性　演劇公演「男嫌い」より)
◎はじめて音楽について知ることが多く、とても興味深い企画でした。(50代女性　「中也の"うた"」より)
◎作品とともに紹介してあったので、旅行がより鮮明で現実的。本当に行ったのだなと感じることができました。(10代女性　「旅する中也―汽車の笛聞こえもくれば」より)

お先に試写しました

© 「5windows」

「5windows」

(2012年／日本／40分／カラー)
[監督]瀬田なつき　[出演]中村ゆりか、斉藤陽一郎、長尾寧音、染谷将太

川沿いをゆっくり歩く、写真を撮る、自転車でぐるっとまわる、空き缶を蹴ってみる、ぼんやりと空を眺める、歌を口ずさんでみる。今日の彼らには、とくに予定はないかもしれないし、あるのかもしれない。そんなことを、たまに彼らが喋っていることから何となく想像するものの、よく分からない。瀬田なつきの「5windows」で描かれる4つの短編は、さり気ない彼らの日常の一コマのように見えて、何かを予感させる意味深さをかすかに感じながらも、さらりと過ぎていく。時間にしてわずか5分。それらは、5つ目の25分の作品へと繋がっていく物語で、空間や時間、記憶がとてもシンプルに立体的に見えてくる。これは彼らの長い人生のわずかな一部分。記憶、場所、幻想、過去、未来の何もかも…。

「5windows」は横浜の黄金町で撮影され、上映された。公開当初は4つの物語はばらばらに屋外で上映され、最後に映画館に集合し25分の物語をみんなで観るという形式をとり、その後も、渋谷や吉祥寺で上映されてきた。そして、ここ山口では一の坂川周辺の店舗や公共施設で長期にわたって、展示上映する。時間と場所を超えた新たな物語。映像と実在の世界が織りなす小さな旅で、その魅力をぜひご体験いただければ。

松冨淑香(YCAM シネマ担当)

2013年7月6日(土)〜12月1日(日)
会場:クリエイティブ・スペース赤れんが、ふるさと伝承センター、一の坂川周辺の店舗
[料金]無料
※上映時間ほか詳細はお問い合わせください。

© 「5windows」

「5windows」　作品紹介

夏のある日、横浜の黄金町にいたリク、トモオ、ヨシクラ、ユキの4人。それぞれの"時間"(4つの物語)。そして、彼らはすれ違い、過去、未来、現在が絡み合って、1つの物語が生まれていく。「架空の映画音楽の為の映像コンペティション」招聘作家の瀬田なつき監督作品。「5windows劇場版」(45分)の上映も予定!

My Favorite

YCAMの地下は、スタジオA下の奈落から、軽油で稼働する発電機が鎮座する発電室、アーティストのPVが撮影できそうなフォトジェニックな空調室など、個人的には見どころ満載です。その中でも特にお気に入りなのは、地下の通路にびっしり張り巡らされた配線。誰かが一本一本整えたであろう几帳面な仕事に心踊ります。

田中 みゆき(山口情報芸術センター 職員)

いらっしゃいませ

だし巻たまご
650円

素材にこだわっただし巻たまご

中原中也記念館から歩いてすぐの場所にある居酒屋「YAOKI」さん。今回は定番メニューの中からだし巻たまごをオーダー。一般のスーパーでは購入できない有精卵を使っているらしいが…。見た目は、というと、普通のたまごよりも黄色がとても鮮やかでおいしそう。さっそく一切れほおばると、食感はふわっふわっ。たまごの味がしっかり味わえて、さらに口の中でじゅわわ〜と広がる風味豊かなまろやかで優しいお出しの味。砂糖は不使用。お出しに加えているのは、こだわりの藻塩と薄口しょうゆだけ。なるほど、シンプルだからこそ素材の味がひきたつんだな。(囲いや檻などに入れずに野に放して飼う)平飼いで元気にたくましく育った鶏と、京都で修業を重ねたマスターの産み出した究極のだし巻たまごがここにあり!!

YAOKI
山口市湯田温泉2-2-16高田公園前　TEL.083-920-6151
営業時間:18:00〜22:30　日曜休み
※any会員の方は2,000円以上のお食事で100円引に。

GOOD GOODS

YCAM 10周年記念祭グッズ
YCAM BAGS

普段使いにも、お友達へのプレゼントにも最適。

ピンバッチに続いて、YCAM10周年の記念グッズに、生地とデザインにこだわったおしゃれで機能的なYCAMオリジナルのトートバッグが登場しました。デザインしたのは、味わいのある文房具や機能性とデザイン性に優れた鞄、靴、財布など様々に手がけ、その商品は国内の文具専門店のみならず、イギリスのボールスミスショップなど世界各国で高く評価されるブランドPOSTALCO(ポスタルコ)。色のバリエーションは3種類あり、黒・緑・蛍光オレンジ×蛍光ピンクから選べます。

価格:2,100円(税込)予定

聴いた!観た!みんなのレビュー

◎松井誠さんたちの艶やかで優雅な舞台も一緒に観られて最高!!(60代女性　演劇公演「男嫌い」より)
◎中原中也が好んだ曲を実際に聞くことができるコーナーが良かったです。(20代女性　「中也の"うた"」より)
◎コミカルで人情的でとても心ほぐされます。(演劇公演「男嫌い」より)
◎中也が文学をするのを反対した父・謙助ですが、自身は文学を好んでいた、という所に中也との血の繋がりを感じることができました。(20代女性　「中也の父・謙助」より)

EVENT CALENDAR 2013.7–9

7 July　8 August　9 September

掲載内容は2013年6月1日現在のものです。変更の場合がありますので、ご了承ください。

山口情報芸術センター（YCAM）

http://10th.ycam.jp/

アート

- 6 ～ 1：「LIFE by MEDIA」 会場：山口市中心商店街／「YCAMDOMMUNE」 会場：DOMMUNEビル（本誌P9参照）
- 6 ～ 29：国際グループ展「art and collective intelligence」
- 6 ～ 12／1：「架空の映画音楽の為の映像コンペティション」 会場：FRANK／「5windows」 会場：一の坂川周辺（本誌P13参照）
- 26 ～ 12／1：坂本龍一＋YCAM InterLab「Forest Symphony」（本誌P9参照）／子どもたちが創造する屋外メディア公園「コロガルパビリオン」（本誌P9参照）

ライブ

- 26：YCAM 10周年記念祭 THE OPENING LIVE CONCERT
- 27：YCAMDOMMUNELIVE

シアター

- 13 15：ハイナー・ゲッベルス「Stifters Dinge」（本誌P9参照）※7／13 関連レクチャー、7／14 関連トークあり
- 24 26：contact Gonzo＋YCAM参加型アウトドア・プロジェクト「hey you, ask the animals. / テリトリー、気配、そして動作についての考察」 会場：旧山口県21世紀の森

シネマ

- 6 7：「架空の映画音楽の為の映像コンペティション」関連上映
- 17 22：音楽家が選ぶ、音楽映画 ※7／20 関連トークあり
- 27：変態（メタモルフォーゼ）アニメーションオールナイト
- 2 4：「架空の映画音楽の為の映像コンペティション」関連上映
- 9 11：真夏の夜の星空上映会
- 23 25：YCAM爆音上映会
- 6 8：「世界最古の洞窟壁画 35mm 忘れられた夢の記憶」
- 13 15：特集「ジョアン・ペドロ・ロドリゲス・レトロスペクティヴ」
- 20 22：特集「ジョアン・ペドロ・ロドリゲス・レトロスペクティヴ」

山口市民会館

http://www.c-able.ne.jp/~shiminkk/

- 25：MALTA Jazz Big Band ～YAMAGUCHI LIVE～（本誌P11参照）
- 27：「悪霊―下女の恋―」（本誌P11参照）

中原中也記念館

http://www.chuyakan.jp/

- 開催中 ～ 25：第10回常設テーマ展示「中也の“うた”」
- 26：企画展「旅する中也―汽車の笛聞こえもくれば」
- 23：中原中也を読む会
- 29 ～ 10／31：特別企画展「『文学界』と中原中也―1930年代の文芸復興」（本誌P10参照）
- 27：中原中也を読む会　会場：山口情報芸術センター
- 27：中原中也を読む会

［マーク説明］ 体験する　参加する　聴く　観る

INFORMATION

■公演チケットのお求めについて

山口市文化振興財団が主催・共催する公演チケットは以下の方法にてご予約・ご購入ください。

予約方法

インターネット　山口市文化振興財団ホームページ（要事前登録・24時間受付）

http://www.ycfcp.or.jp/

※any会員の方は先行予約初日の10:00より、一般の方はプレイガイド発売日の10:00より受付開始。

電話　チケットインフォメーション（10:00～19:00　※火曜休館・祝日の場合は翌日）

TEL. 083-920-6111

窓口　チケットインフォメーション（10:00～19:00　※火曜休館・祝日の場合は翌日）

山口情報芸術センター

※先行予約初日はインターネットまたはお電話のみの受付となり、窓口のご利用は翌日からとなります。

支払方法

クレジットカード　インターネット・電話でチケット予約された際に利用いただけます。
チケットのお受け取りはお近くのセブンイレブンまたは山口情報芸術センターにお越しください。

セブンイレブン　インターネット・電話でチケット予約された際に利用いただけます。
お近くのセブンイレブンでお支払いいただけます。チケットはその場でお受け取りください。

窓口　※上記予約方法「窓口」参照

■託児サービスについて

山口市文化振興財団では
託児サービスを行っています。

※おもちゃ、おむつ、着替え等必要なものはご持参ください。
　お子様の食事は事前に済ませておいてください。

公演開催時

［対象］0才（6ヶ月）以上
［料金］1人につき500円、
　　2人目以降は1人につき300円
［時間］開演の30分前から終演後30分まで
［申込方法］公演日の1週間前までに左記チケットインフォメーションまたは山口情報芸術センターにてお申し込みください。

※公演によっては行わない場合もございます。
　事前にお問い合わせください。

山口情報芸術センター　キッズスペース

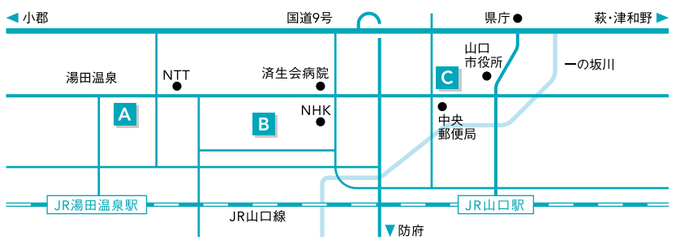
［対象］1才以上
［料金］1人につき30分150円
［時間］13:00～17:00　1回2時間まで
　（山口市立中央図書館休館日を除く）
［申込方法］当日、山口情報芸術センターにてお申し込みください。満員の際は順番制となります。

any（エニー）会員募集！

※入会方法等、詳しくはお問い合わせください。

any会員は、山口情報芸術センターや山口市民会館などで行われる財団主催・共催の公演や展示、ワークショップ等の情報をいち早くお知らせし、楽しんでいただくための友の会です。公演のチケットが一般の方よりも安く、早く購入できるなどの特典があります。

［年会費］1,500円＋入会金500円　※会員期間内に更新される場合、入会金は不要です。
［会員期間］入会日から翌年の入会月末まで
［会員特典］チケットの先行予約および割引購入（公演によっては適用されないものもあります）、
　　情報誌の無料送付、YCAMシネマ・中原中也記念館招待券プレゼントなど



公益財団法人
山口市文化振興財団
Yamaguchi City Foundation for Cultural Promotion
〒753-0075　山口市中園町7-7（山口情報芸術センター内）
TEL. 083-901-2222 ／ FAX. 083-901-2216
http://www.ycfcp.or.jp/　zaidan-info@ycfcp.or.jp

編集後記

いつもより早い梅雨入り。そして、年々、季節感がなくなる台風の到来。着々と準備が進むYCAM10周年記念祭は屋外での設営もあるので大変そうです…。でもスタートが今から待ち遠しい！［M.D］
いよいよYCAM10周年記念祭が始まりますね。開館の夜は自宅から飛び交う光を眺めていたことを思い出します。あれから10年、早かったな。YCAMの軌跡を「YCAM Re-Marks」でチェックしよっと！［T.I］

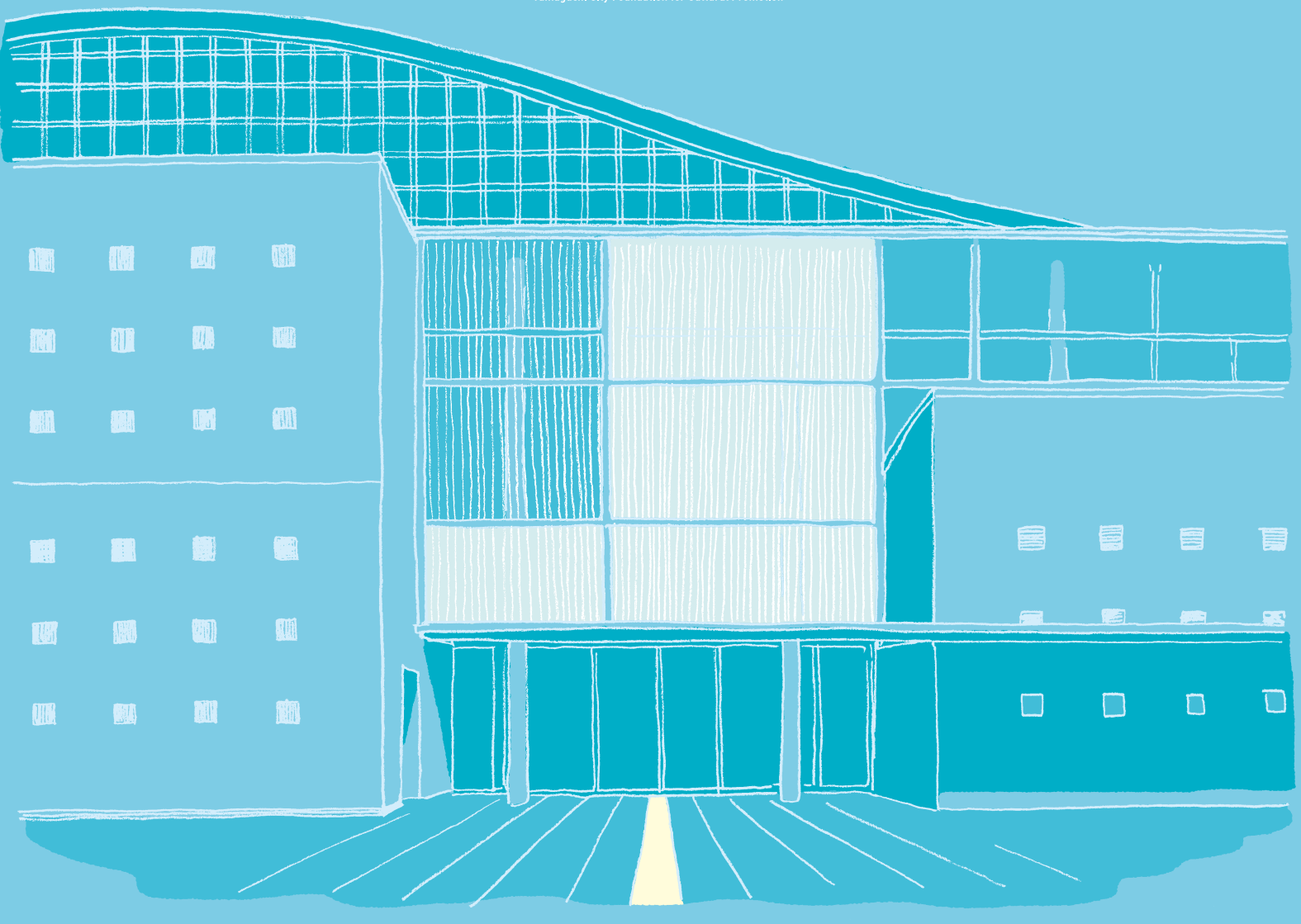
A 中原中也記念館
〒753-0056　山口市湯田温泉1-11-21
TEL. 083-932-6430 ／ FAX. 083-932-6431
［開館時間］9:00～18:00（入館は17:30まで）【5～10月】
　　9:00～17:00（入館は16:30まで）【11～4月】
［休館日］月曜（祝祭日の場合は翌日）、毎月最終火曜（変更あり）、年末年始
http://www.chuyakan.jp/　chuyakan@c-able.ne.jp

B 山口情報芸術センター（YCAM）
〒753-0075　山口市中園町7-7
TEL. 083-901-2222 ／ FAX. 083-901-2216
［開館時間］10:00～20:00（夜間イベントのある日は22:00まで）
［休館日］火曜（祝祭日の場合は翌日、ただし10／22［火］は開館）、年末年始
http://www.ycam.jp/　information@ycam.jp

C 山口市民会館
〒753-0074　山口市中央2-5-1
TEL. 083-923-1000 ／ FAX. 083-928-8488
［開館時間］8:30～17:15　［休館日］年末年始
http://www.c-able.ne.jp/~shiminkk/　shiminkk@c-able.ne.jp

中也検定 答え
A. 3 栗の砂糖煮
（「砂糖水のなかにむき身の栗が泳いでいるのを、黙って楊枝でつきさしながら食べていた」（「『文学界』出張校正室」）そうです。）

聴いた！観た！みんなのレビュー
◎中也の歌そのものだけであれば、触れる機会は多々ありますが、その人となりや、生い立ち、人間関係を詳しく知ることが出来て良かったです。（20代男性　「中也の“うた”」より）
◎主人公に自分を重ねて観ていました。日常に起こりそうな場面が多く、私の日常にも起こらないかと夢心地でした。（40代女性　演劇公演「男嫌い」より）
◎鉄道ファンでもあるので、その点でもありがたかった。（60代男性　「旅する中也―汽車の笛聞こえもくれば」より）
◎沢口靖子さんの爽やかさがいつまでも変わらず素敵だった。（60代女性　演劇公演「男嫌い」より）

アートと環境の未来・山口
YCAM 10周年記念祭

公益財団法人
山口市文化振興財団
Yamaguchi City Foundation for Cultural Promotion